

授業科目	フィジカルアセスメント	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期
学習目標	患者を正確に診るために必要な身体査定法について、科学的根拠に基づいて習得する						
授業内容 (講義)との内容	1. 看護とヘルスアセスメント、バイタルサインの仕組みと機能 2. 正しいバイタルサイン測定の方法と留意点 3. バイタルサイン測定の手順と使用物品の特性 4. 5. バイタルサイン測定の実際 (体温・呼吸・脈拍・SpO <sub>2</sub> ・血圧) 6. バイタルサイン測定技術チェック 7. フィジカルアセスメントに必要な技術、身体計測 呼吸器系のフィジカルアセスメント 8. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 (演習) 9. 循環器系のフィジカルアセスメント 10. 循環器系のフィジカルアセスメントの実際 (演習) 11. 乳房・腋窩、腹部のフィジカルアセスメント 12. 腹部のフィジカルアセスメントの実際 (演習) 13. 神経系のフィジカルアセスメント 頭頸部と感覚器 (眼・鼻・口) のフィジカルアセスメント 14. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 15. 試験					担当者 (時間)	専任教員
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) 看護がみえる vol. 3 フィジカルアセスメント (メディックメディア)						
備考	演習は複数教員で対応する						

授業科目	活動と体位保持の援助技術	単位	1	時間	15	履修時期	1年次 1学期
学習目標	姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解し、体位変換や体位保持の援助ができる。						
授業内容 (講義)との内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 姿勢を保ち、活動を整える援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 姿勢・活動に関する基礎知識</li> <li>2) 体位</li> <li>3) ボディメカニクス</li> </ol> </li> <li>2. 体位変換の実際 (演習)</li> <li>3. 体位保持 (ポジショニング) (演習)</li> <li>4. 体位保持 (ポジショニング) (演習)</li> <li>5. 移動・移乗の援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 歩行介助、杖、松葉杖、歩行器</li> <li>2) 車椅子</li> <li>3) ストレッチャー</li> </ol> </li> <li>6. 移動・移乗の援助の実際 (演習)</li> <li>7. 移動・移乗の援助の実際 (演習)</li> <li>8. 試験</li> </ol>					担当者 (時間)	
						専任教員	
評価	筆記試験等						
テキスト	専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術・看護がみえる vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)						
備考	演習は複数教員で対応する						

授業科目	感染防止と環境を整える援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期
学習目標	1. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、標準予防策・感染経路別予防策を学ぶ。 2. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと整備について学ぶ。 3. 洗浄・消毒・滅菌の実際、感染性廃棄物の取り扱い、無菌操作について学ぶ。						
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 感染防止の技術 -1 1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策 3) 感染経路別防止策 4) 感染性廃棄物の取り扱い 2. 演習：標準予防策・衛生学的手洗い 3・4. 人にとって快適な環境とは 環境の構成要素 1) 日常生活と療養生活の環境 2) 病室および病床環境のアセスメントと調整 5・6. 演習：環境測定 7. ベッドメイキング・リネン交換の原理と方法 8・9. 演習：ベッドメイキング 10・11. 演習：臥床患者のシーツ交換 12. 技術チェック：ベッドメイキング 13. 感染防止の技術 - 2 1) 洗浄・消毒・滅菌 2) 無菌操作 14・15 演習：無菌操作 16. 試験 (45 分間)					担当者 (時間)	
						米子医療センター 感染管理認定看護師	
						専任教員	
評価	筆記試験						
テキスト	専門分野 I 基礎看護学 2 基礎看護技術 I (医学書院) 専門分野 I 基礎看護学 2 基礎看護技術 II (医学書院) 看護がみえる vol.1 (メディックメディア) 看護覚え書き (現代社)						
備考	入学後すぐに、感染防止の基礎を得て衛生学的手洗いや標準予防策を見につけます。 看護学生として確実にいき、自らの感染防止に活かし、努めていきましょう。 演習は複数教員で対応します。						

授業科目	看護の中の物理	単位	1	時間	15	履修時期	1年次 1学期
学習目標	人体や医療に関する物理現象と日常の身近な物理現象から物理的に解釈するセンスを養い、人体のメカニズムを理解する。						
授業内容 (講義)との内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 力学 力のモーメント</li> <li>2. 筋肉の張力と関節、腰に働く力 てこの原理の人体への応用</li> <li>3. 看護ボディメカニクス の物理 身近な圧力、大気圧</li> <li>4. 呼吸と吸引の物理</li> <li>5. 点滴静脈内注射の物理 循環器の物理</li> <li>6. 感覚器の物理</li> <li>7. 体温制御の物理</li> <li>8. 試験</li> </ol>					担当者 (時間)	
						非常勤講師	
評価	筆記試験						
テキスト	看護学生の為の物理学 (医学書院)						
備考							

授業科目	看護学概論	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期
学習目標	看護を志す初学者として、看護とは何かを学び、看護の対象の理解を深めるとともに、看護職者が実践する看護とは、どのような活動なのか、その機能と役割について学ぶ						
授業内容 (講義)の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護への導入</li> <li>2. 看護とは</li> <li>3～4. 看護の対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人間のこころとからだ</li> <li>2) 生活者としての人間</li> </ol> </li> <li>5～6. 健康のとらえ方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康とはなにか</li> <li>2) 健康な状態、健康でない状態</li> </ol> </li> <li>7～9. 国民の健康状態と生活 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国民の健康の全体像について</li> <li>2) 人々の生活と健康に関する統計データ</li> </ol> </li> <li>10. 看護の提供者</li> <li>11. 看護における倫理</li> <li>12. 看護の提供の仕組み <ol style="list-style-type: none"> <li>1) サービスとしての看護と看護サービス提供の場</li> <li>2) 医療安全と医療の質保証</li> </ol> </li> <li>13. 広がる看護の活動領域</li> <li>14. 看護学生として臨地実習で必要な知識と行動について (講義の進度は、基礎看護学実習 I-1 開始前)</li> <li>15. 試験</li> </ol>					担当者(時間)	専任教員
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 看護覚え書 -看護であること看護でないこと- 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版社						
備考							

授業科目	看護技術論	単位	1	時間	15	履修時期	1年次 1学期
学習目標	看護技術を学ぶ必要性について理解し、看護をするうえで欠かせない人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を修得する。						
授業内容 (講義)との内容)	1. 技術とは 看護技術の特徴 看護技術の範囲 2. 看護技術を適切に実践するための要素 看護技術の発展と修得のために 3. コミュニケーションの意義と目的 4. コミュニケーションの構成要素と成立過程、 プロセスレコード 5. 関係構築のためのコミュニケーション 6. 効果的なコミュニケーションの実際 7. コミュニケーション障害のある人への対応 終了試験					担当者 (時間)	
						専任教員	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②						
備考							

授業科目	看護診断と看護過程	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 2学期
学習目標	対象の持つ健康上の問題を明らかにして、その健康問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する。						
授業内容（講義ごとの内容）	1. 看護過程の基盤となる考え方 1) クリティカルシンキング 2) リフレクション(内省・省察・熟考) 3) 臨床判断モデル 2. 看護モデルとゴードンの機能パターンによるアセスメント分析 3.～7. 看護診断過程 1) 観察 2) 系統的情報収集とデータ収集法 3) 情報の分類・整理 4) 情報の分析方法（要因・現状・成り行きの推測・判断） 5) 総合・全体像の把握 8～10. 看護診断の定義 1) 看護問題の明確化(看護診断、共同問題) 2) 優先順位の決定 11～13. 看護実践過程 1) 目標設定・計画・実施 (1) 期待される成果の明確化 (2) 看護計画の立案 (3) 実施時の視点と実施の記録 2) 評価・修正 (1) 対象の日々の状態の変化に合わせた計画の修正 (2) 期待される成果や患者の反応に合わせた計画の修正 14. 看護記録 15. 試験					担当者（時間）	
						専任教員	
評価	筆記試験＋課題提出						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院） 看護が見える④看護過程 看護診断ハンドブック						
備考							

授業科目	食事と排泄の援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1学期
学習目標	人間にとって「食べる」「出す」の営み(行動)が適切に行えることの意義を理解し、最も自然で効果的な方法で行えるための援助方法について学ぶ。同時に障害がある場合の援助や処置についても学ぶ。						
授業内容(講義)との内容	1. 人にとっての食事と排泄の意義 1) 消化吸収と排泄のメカニズム 2) 摂食行動と排泄行動 3) 健康な食事と排泄をもたらすもの 2. 摂食・栄養のアセスメントと管理 1) 摂食能力 2) 栄養状態および水分・電解質バランス 3. 食事の援助 1) 美味しく健康的に食べるための援助 2) 食事動作機能障害がある患者の援助 演習：食事介助 4. 非経口栄養法 1) 経管・経腸栄養法/経静脈栄養法 5. 演習：経管・経腸栄養法 6. 自然排尿・排便をもたらす援助 1) 快便のためのセルフケア 2) トイレでの排泄に制限または困難がある患者の排泄の援助 (1) 羞恥心や遠慮による患者の心理と配慮 (2) 副交感神経を優位にする効果 (3) 床上での自然排尿および自然排便の介助の基礎知識 7. 8. 演習：自然排尿の介助の実際 9. 演習：自然排便の介助の実際 10. 演習：陰部洗浄 11. 12. 排便・排尿障害とは 1) 便秘・下痢の種類と要因 と援助の方法 浣腸・摘便 2) 一時的導尿・持続的導尿 13. 14. 演習：一時的導尿の実際 15. 試験					担当者(時間)	
						専任教員	
評価	筆記試験						
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術・看護がみえる vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)						
備考	解剖学、生理学で学んだ消化器系の内容を復習し、講義・演習に臨んでください 演習に関しては複数講師で対応する						



授業科目	睡眠・休息と安楽確保の援助技術	単位	1	時間	15	履修時期	1年次 1学期	
学習目標	1. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠に障害をもつ患者への援助を理解する 2. 罨法の種類と罨法が身体に及ぼす影響を理解する 3. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする援助技術について理解する。							
授業内容 (講義)の内容	1. 睡眠・休息の援助 1) 人にとって睡眠・休息の必要性 サーカディアンリズム 2) 睡眠・休息の障害の人への影響 2. 睡眠に障害をもつ患者への援助 3. 安楽とは 交感神経と副交感神経 安楽の阻害因子 4. 安楽確保の技術 1) 罨法とは (1) 温罨法(演習) (2) 冷罨法(演習) 5~7. 身体ケアを通じてもたらされる安楽 1) リラクゼーションとは (1) 漸新的筋弛緩法(演習) (2) 熱布バックケア(演習) (3) マッサージ(演習) 8. 試験					担当者(時間)		専任教員
評価	筆記試験							
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる vol.1 基礎看護技術・看護がみえる vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)							
備考	演習は複数教員で対応する							

授業科目	清潔・衣生活の援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	1年次 1・2学期
学習目標	1. 清潔・衣生活の意義や目的、援助におけるアセスメントの視点を理解する。 2. 清潔・衣生活の援助に必要な基本的知識を理解する。 3. 清潔・衣生活に関する基本的な援助の方法を習得する。						
授業内容 (講義ことの内容)	1. 清潔と衣生活の援助の基礎知識 1) 皮膚・粘膜の構造と機能 2) 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 3) 衣服を用いることの意義 4) 熱産生と熱放散、衣服気候 5) 衣生活に関するニーズのアセスメント 2. 清潔援助の実際 洗面、口腔ケア、ひげそり、爪切り(演習) 3. 手浴・足浴の援助の基礎知識と方法 手浴(演習)・足浴(演習) 4. 洗髪の援助の基礎知識と方法 6. ケリーパッド法による洗髪 (演習) 7. ケリーパッド法による洗髪 (演習) 8. ケリーパッド法による洗髪 (演習) 9. 全身清拭、病衣の交換の基礎知識と方法 10～13. 全身清拭、病衣の交換 (演習) 14. 入浴、シャワー浴 15. 試験					担当者(時間)	
						専任教員	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる vol.1 (メディックメディア)						
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の習得においては、正しい知識と手技で繰り返し自己学習やグループ演習を行い到達度を高めて下さい。</li> <li>・授業以外の空き時間を活用して、グループ・個人で話し合いや演習を行い、学習を主体的に進めていきましょう。</li> <li>・授業時間外の技術演習で教員の指導を希望する場合や実技評価を受ける時は、事前にできるだけ早く日時を申し出て調整しましょう。</li> <li>・演習に関しては複数講師で対応する。</li> </ul>						